

# ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム (HFSP)

## 2008年度審査結果について

国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム推進機構 (HFSPPO) が、2008年度の助成プログラムの審査結果を発表しました。

### 2008年度 各助成制度の応募数及び受賞数

研究 Grant	応募状況		受賞状況	
	応募 チーム数	応募者数 ( )内は日本人	採択 チーム数	採択者数 ( )内は日本人
プログラム・Grant	591	1993(170)	18	61( 6)
若手Grant	183	449( 27)	14	38( 4)
合計	774	2442(197)	32	99(10)

フェローシップ	応募状況		受賞状況	
	応募者数	日本人 応募者数	採択者数	日本人 採択者数
長期フェローシップ	580	60	95	11
学際的フェローシップ	56	3	12	1
合計	636	63	107	12

CDA	応募状況		受賞状況	
	応募者数	日本人 応募者数	採択者数	日本人 受賞者数
	57	6	21	3

※CDA : キャリア・ディベロップメント・アワード

(2008年度に採択された日本人研究者)

## ■ プログラム・グラント：6名採択

### ① 樋口 秀男

(東京大学大学院理学系研究科 教授)

*“Structure and mechanism of cytoplasmic dynein”*

(生体分子モーター「細胞質ダイニン」の構造と作動メカニズム)

### ② 昆 隆英

(東京大学大学院総合文化研究科 助教)

*“Structure and mechanism of cytoplasmic dynein”*

(生体分子モーター「細胞質ダイニン」の構造と作動メカニズム) ※①と同一チーム

### ③ 望月 敦史

(自然科学研究機構基礎生物学研究所理論生物学研究部門 准教授)

*“Modeling cell fate during Drosophila heart development”*

(シヨウジョウバエの心臓発生過程における細胞運命のモデル化)

### ④ 下郡 智美

(理化学研究所脳科学総合研究センター 下郡研究ユニット ユニットリーダー)

*“Self-organized wiring of the cerebral cortex through thalamocortical growth cones: an integrated approach”*

(神経活性変化に伴う視床ニューロンの大脳皮質内での接続変化、周辺構造変化のメカニズム)

### ⑤ 田代 真人

(国立感染症研究所ウイルス第3部長)

*“Integrating the antigenic, genetic, and epidemiological analyses of antigenically variable pathogens”*

(抗原多様性病原体の抗原性、遺伝子および疫学解析)

### ⑥ 吉村 成弘

(京都大学大学院生命科学研究科 准教授)

*“Translation by single ribosomes one codon at a time”*

(リボソームによるタンパク質合成機構の1分子・1コドン解析)

## ■ 若手研究グラント：4名採択 (研究代表者1名)

### ① 田中 好幸 (研究代表者)

(東北大学大学院薬学研究科 准教授)

*“Probing the mechanism of the cleavage reaction in catalytic RNAs”*

(酵素RNA分子によるRNA切断反応のメカニズムの構造化学的解析)

### ② 加藤 昌人

(テキサス州立大学サウスウエスタンメディカルセンター アシスタントプロフェッサー)

*“Probing the mechanism of the cleavage reaction in catalytic RNAs”*

(酵素RNA分子によるRNA切断反応のメカニズムの構造化学的解析) ※①と同一チーム

③ 松田 欣之

(東北大学大学院理学研究科 助教)

*“Probing the mechanism of the cleavage reaction in catalytic RNAs”*

(酵素RNA分子によるRNA切断反応のメカニズムの構造化学的解析) ※①と同一チーム

④ 澤井 哲

(東京大学大学院総合文化研究科 准教授)

*“Information processing in developing cells”*

(発生する細胞の情報処理)

■ キャリアデベロップメントアワード：3名採択

① 五島 剛太

(名古屋大学高等研究院 特任准教授)

*“Functional analysis of a novel microtubule generation pathway in animal cells”*

(動物細胞における新規の微小管生成経路の機能解析)

フェローシップ受賞歴：米国 カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (2003年～2006年)

② 竹内 純

(東京工業大学グローバルエッジ研究院 特任助教)

*“Epigenetic signal pathway in cardiovascular development and diseases”*

(心発生/心疾患におけるエピジェネティックシグナル因子の機能)

フェローシップ受賞歴：カナダ トロント小児病院/トロント大学 (2003年～2006年)

③ 泊 幸秀

(東京大学分子細胞生物学研究所/新領域創成科学研究科 講師)

*“Biochemical dissection of gene silencing by small RNAs”*

(small RNAによる遺伝子サイレンシングの生化学的解析)

フェローシップ受賞歴：米国 マサチューセッツ州立大学 (2004年～2006年)

## ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム（HFSP）について

### 1. 概要

**背景** 1987年のベネチア・サミットにおいて、中曽根首相（当時）が提唱

**目的** 生体の持つ優れた機能の解明のための基礎研究を学際、国際、若手重視の理念の下に推進し、その成果を広く人類全体の利益に供すること

**成果** 研究グラントを受けた研究者のうち12名がノーベル賞を受賞

**運営支援国** 日本、米、英、仏、独、伊、EU、スイス、加、韓、豪、NZ、印、ノルウェー

我が国は、約35.3億円（平成20年度予算、全体の約5.2割）を拠出

### 2. 事業内容

#### ■実施主体

国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム推進機構(HFSP0) (1989 設立)

評議員会会長：伊藤正男 理化学研究所脳科学総合研究センター特別顧問

事務局長：トルステン・ガイゼル ロックフェラー大学名誉学長(1981年ノーベル生理学・医学賞受賞)

#### ■助成研究対象領域

生体の持つ複雑な機能の解明のための基礎研究

(具体的には、分子レベルでの生物学的機能や、高度な脳機能の解明など)

#### ■助成事業内容

##### ①研究グラント事業：国際共同研究チームへの研究費の助成

プログラム・グラントと若手研究者グラントの2種類。2ヶ国以上の研究者（異なる研究分野）からなるチームを対象。助成期間は3年間で、年間の助成額は最大45万ドル。

2008年度：32件（うち日本人研究者10名（研究代表者1名）採択）

プログラム・グラント18件（うち日本人研究者6名）

若手研究者グラント（准教授、講師等が対象）14件（うち日本人研究者4名（研究代表者1名））

##### ②フェローシップ事業：国外での研究を行うための旅費・滞在費の助成

###### ◆長期フェローシップ事業

博士号取得後3年以内の研究者を対象。新しい研究分野に挑戦することを重視。

助成期間は3年間で、助成支援の3年目（最終年）には本国へ帰るか、引き続き受け入れ先で研究を続けるかを選択できる。年間の助成額は約4万5千ドル。家族手当、語学研修手当有り。

2008年度：95名（うち日本人研究者11名）採択

◆学際的フェローシップ事業

生命科学分野以外（物理学、化学、数学、工学等）の研究者が国外で生命科学分野の研究を行うことを支援。応募条件は長期フェローシップと同じ。

2008年度：12名（うち日本人研究者1名）採択

◆短期フェローシップ事業

新たな知見の習得、新しい分野の共同研究の確立、新たな国際的共同研究立ち上げのための結果の収集などを支援。随時採択。

助成期間は2週間～3ヶ月

③キャリア・ディベロップメント・アワード事業：帰国後の支援

若手研究者が帰国時に独立した研究を始めることを支援。助成期間は3年で、助成額は、総額30万ドル）。2001年以降に長期及び学際的フェローシップを2年以上受給した研究者を対象（終了から2年以内）

2008年度：21名（うち日本人研究者3名）採択

④受賞者会合事業：受賞者の国際的な研究集会

グラント・フェローシップ受賞者が一堂に会し、最先端の研究成果について情報交換、討議等を行う。2007年度はオーストラリア（サンシャインコースト）、2008年度はドイツ（ベルリン）で開催予定。